雑説 ―訓読―

【第一段】世に伯楽有りて、然る後に千里の馬有り。千里の馬は常に有れども、伯楽は常には有らず。故に名馬有りと雖も、祇だ奴隷人の手に辱められ、槽櫪の間に駢死して、千里を以て称せられざるなり。

【第二段】馬の千里なる者は、一食に或いは粟一石を尽くす。馬を食ふ者は、其の能く千里なるを知りて食はざるなり。

【第三段】是の馬や、千里の能有りと雖も、食飽かざれば、力足らず、才の美外に見れず。且つ常馬と等しからんと欲するも、得べからず。安くんぞ其の能く千里なるを求めんや。

【第四段】之を策うつに其の道を以てせず。之を食ふに其の材を尽くさしむる能はず。之に鳴けども其の意に通ずる能はず。策を執りて之に臨みて曰はく、「天下に馬無し。」と。

【第五段】嗚呼、其れ真に馬無きか、其れ真に馬を知らざるか。